

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 3 月 23 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3474800376		
法人名	社会福祉法人 優輝福祉会		
事業所名	グループホーム みら屋		
所在地	広島県三次市三良坂町三良坂1789番地の2 (電話) (0824) 44-3008		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3474800376-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年3月13日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様本位の個別ケアと、四季折々の自然の中で五感に積極的に働きかける取り組みをベースにしています。職員はご利用者様のパートナーとして「一緒に大笑い 楽しい一日ありがとう」を合言葉に、ご利用者に寄り添い、共に暮らしていく家族の様に、住み慣れた我が家となることを目指しています。また、地域の行事にも積極的に参加し、地域とのつながりを持ち続けることに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

社会福祉法人・優輝福祉会が母体である同事業所は、「地域と共に暮らし住み慣れた我が家」を目指し運営されている。市町や地域住民との交流も深く、隣にある小規模多機能「三良坂」を始めとして、同母体が運営する他の介護施設の他、レストラン、パン工房、洋菓子店等がある。このネットワークを活用して、利用者は食事に出掛けたり、買い物に行く等して暮らしを豊かにしながら過ごしている。職員も母体が運営する託児所を利用出来、働きやすい環境が構築されている。又、この組織はユニークな取り組みも有り、必要とする備品（テーブルやイス、食器等）や消耗品（オムツ等）を、グループ内の各事業所にFAXで要望を呼び掛けると、用意出来る事業所から提供を受けられる等、リサイクルの活用にも取り組んでいる。管理者は常に利用者の為に何が出来るか職員と話し合いながら更なる支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域の住民の思いを含めた開設当初からの理念を、毎年の事業計画やパンフレットにも掲載し、少しでも実現できるように取り組んでいる。日常の場合、申し送り、職員会議や運営推進会議等を通じて話し合いをしながら取り組んでいる。	開設時に住民（地主が有意義な活用を希望）の思いを法人に相談した上で設立した同事業所は、町の中の普通の家で「いっしょに大笑い、楽しい1日ありがとう」の理念を、管理者や職員は研修や日々のケアの中で共有し、地域密着型サービスを活かしながら、実践に繋げるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事（お祭りやとんど、運動会、平和式典等）に参加したり、中学校の職場体験実習を受け入れている。また、保育所や地域のいきいきサロンとの交流を続けている。	利用者は住み慣れた景色の中で、市町主催の健康ウォーキングコースの途中の休憩所として、所有するお茶室を開放し、利用者と共に交流したり、敬老会やお祭り、とんど、コンサート等に出掛けている。又、同事業所に知人が訪ねて来たり、日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域貢献については、法人としても、取り組んでいるが、まだ、具体的な成果としては、十分ではない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者やご家族、行政、民生委員児童委員、保健師と、それぞれの立場からの意見や思いも、会議の中で述べて頂き、サービス向上や地域交流に活かしている。	会議は2か月に1度開催され、利用者や家族、市町関係者、地域住民が常に出席している。その中に、事業所の管理者及び職員は勿論の事、法人グループの他の事業所の管理者も出席し、意見交換を行いながら、更に法人全体としても、サービスの向上に活かす取組みがされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	要介護認定更新時等、市役所（支所）に行った際、担当課や担当者とは話しをすることがある。運営推進会議に来られる市の職員と連絡を取って、積極的にケアサービスの取組みを伝えて、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町の担当者とは、運営推進会議等を通して顔馴染みの関係で、市が主催のグループホーム交流会も執り行われている。更には、健康ウォーキングの協力や、同事業所への利用者の受け入れを頼まれる等、協力関係が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>事業所会議等で話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の戸を開けたら音がするようにしたり、職員が目配り、気配りをするように心がけている。</p>	<p>広い庭に面する玄関は、いつでも出入り自由で、家族や知人は自由に来所している。夜間やむを得ない場合は、家族の同意のもとで、センサーを設置する事もある。職員は、スピーチロックにも気配りし、毎日「こうしようルール」を読み、研修後は復命書を提出する等して、身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人内の研修や外部の研修等で学び、また職員会議、事業所内の研修等で勉強会を開催している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している。</p>	<p>法人内の研修や外部の研修等で学ぶようにしているが、まだまだ不十分である。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書、重要事項説明書に明記し、入居時に説明し、同意を得ている。また、必要に応じてご家族に説明したり、話しをして、理解を深めてもらう機会を持つようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議に利用者の代表として出席して意見を述べてもらったり、日常の場面でも耳を傾けるよう、努力している。また、法人全体の取り組みとして、随時、アンケートを実施し、結果を職員会議で話し合ったりしている。定期的に連絡をしたり、来所時には日々の様子を伝えたりしている。</p>	<p>頻繁に利用者のもとを訪問する家族からは、その都度話し合いを行い、通院に付き添う家族からはその機会毎に、意見を聞いている。遠方の家族には、月に1度、他の書類と共に通信を同封し、要望や意見を聞く等しながら、運営に反映させるよう努力がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の人事考課を実施し、必要に応じて、個人懇談を行い、職員の思いや意見を聴くようにしている。また、日々の申し送りや事業所会議等でも意見交換している。	平素の支援の中で、運営に関しての提案や、日々の話し合いの中でアイデア等を出し合う等、より良い運営に繋がるような取り組みがされている。又、物品購入等は、管理者が法人に相談して、意見の反映に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人全体で人事考課制度を導入し、年2回行っており、個々の努力や実績が反映されるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必要に応じて外部の研修に参加している。法人全体で研修体系があり、新人研修・現任者研修など、研修の機会を確保している。また、法人内で随時、ケアコンテストを開催し、ケアの見直しや取り組み方法について考えている。今年度は、法人全体で目標管理シートを活用して、ケアの質の向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部の研修に参加したり、他事業所の実習の受け入れを行ったり、職員が同業者と交流する機会を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前から本人や家族と事前面接を行ったり、電話で状況を確認したり、入居後も新しい環境に慣れて頂けるように、声掛けや状況報告をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前から本人と事前面接を行ったり、入居後も新しい環境に慣れて頂けるように、声掛けをしたり、傾聴に取り組んでいる。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>現在の状況や、本人・家族の思いを聞き、状況に応じて、他のサービス機関と連携をとっている。法人全体でもサービスの利用調整を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>「一緒に大笑い 楽しい一日 ありがとう」をモットーに、昔ながらの調理法を教えたり、昔話を聞いたり、歌を習ったり、一緒に過ごす時間を大切にしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入居中の本人の様子をお話したり、定期的に入居中の様子を手紙で伝えている。あるいは、入居前の様子を伺ったりしながら、本人が安心して生活して頂けるように協力し合っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>近隣や友人の方にも、度々面会に来て頂けるよう声を掛けている。また、地域のお祭りに参加したり、地域行事への参加を行っている。</p>	<p>住み慣れた町で、通い慣れた美容院の協力のもと送迎して貰ったり、時には帰りに一緒にショッピングを楽しむ等、途切れない関係がある。又、以前、参加していたコーラスグループへ家族が送り迎えして、断ち切らない関係づくりを大切に、職員も様々な場面で共に協力しながら支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の間に職員が入って、コミュニケーションを取りやすくしている。座席を工夫したり、利用者同士がお互いに「ありがとう」と言えるような声掛けを、職員が行うようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	状況に応じて家族へ連絡したり、他の機関との連携を図るようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の事前面接や、入居後もこれまでの生活歴を尋ねたりしながら、本人のこれまでの暮らし方が継続出来るよう努めている。日々の生活の中でも、コミュニケーションを密に取るよう心がけ、対話を通じて本人の好きな事や、思いを聞くようにしている。	利用者一人ひとりの生活歴や、申し送りノート等で希望を把握し、毎日の生活の中で職員が会話の中から思いをくみ取り支援している。又、意向の把握が困難な場合は、職員の判断で隣にある小規模多機能「三良坂」に出掛ける等、思いをくみ取りながら、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の事前面接や、入居後もこれまでの生活歴を尋ねたりしながら、本人のこれまでの暮らし方が継続出来るよう努めている。また、ご家族からもこれまでの生活の様子を詳しく聴くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の申し送りや記録等を通じて現状を把握し、安心して過ごして頂けるよう支援している。必要に応じて、記録の様式も使い分けて、より一人ひとりの状況が把握出来るように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>一人ひとりの入居者に担当の職員を付け、介護支援専門員とその職員が中心となってアセスメントも行い、具体的な計画を作成している。</p>	<p>本人、家族の意見を中心に、ケアマネジャーや担当職員、必要な関係者が、基本的には年1回計画を立てている。毎月1回、モニタリングを行い、評価をしながら見直している。計画の中で困難な場合は、家族の話からヒントを見つけ、より良い介護計画を作成する取り組みがある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別計画に日々の状態を、具体的に分かりやすく記録するように努めている。また、直近の事や、重要だと思われる事は、個人毎の連絡リストに記入している。また、状況に応じて、記録の様式を使い分けるなどの工夫も行いながら、より個別的な支援を目指している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>法人内の他のサービスも紹介したり、利用したりしながら、本人らしい生活が出来るように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域柄か、協力が難しいところがある。理解のある方と、協力して頂けるところから取り組んでいる。(美容院・地域サロン等)</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>近隣にかかりつけ医(週1回往診あり)があり、また、希望に応じて、他の医療機関でも診療を受けられるよう支援している。</p>	<p>事業所のかかりつけ医の内科や歯科医の写真を玄関正面に掲げ、家族にも紹介を行う事で、安心感に繋げている。内科の往診は週1回あり、常勤の看護師が介護と看護を行い、有事に24時間体制で支援している。更に必要な場合は、他の医療で受診できる体制がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	職員の中に看護師を配置し、日常の健康管理が行えるようにしている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	状態に応じて、家族・医療機関と相談を行いながら支援している。入院中も様子伺いに訪問する等して、情報が共有出来るように努めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入居時に本人や家族の同意を確認し、状況に応じて話し合いや相談している。入居後も身体状況に応じて、かかりつけ医と相談しながら支援している。「看取りの方針」を入居時に説明し、希望を記入して頂いている。状態が変化した時等、常に見直しをすすめている。	重度化した場合の説明は利用開始時に実施し、同意を得ている。看取りに入った場合は、その都度、家族と話し合いながら取り組んでいる。職員は看取り経験者も数人おり、管理者や看護師に相談しながら、自然の流れの中で支援している。稀であるが、家族からの希望で医師と相談し、自宅に帰る事例もある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	法人全体の研修の中で、定期的に救急救命講習を受講したり、職員会議でもその都度、看護師が指導したりしている。ケアプランにも入れてあり、職員同士で課題として共有している。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回避難訓練を実施している。主に、夜間を想定して避難訓練を実施している。地域の消防団や地域住民と合同の消防訓練も、年1回行っている。	ハザードマップ等で、事業所は危険地域ではない事を確認している。消防署とはホットラインで繋がっており、3月には防災訓練、12月には消防訓練を其々の目的に応じて行っている。地域住民との協力体制も築いている。備蓄は3日分確保されており、災害対策に取り組む姿勢が伺える。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	出来る限り利用者の方の目線に立って、言葉掛けや対応をするようにしている。記録等も利用者の目の届かない所へ保存している。	職員は日頃より「こうしようルール」の読み合わせで、プライバシー確保について取り組んでおり、現任研修で接遇についても行っている。日頃の支援に於いては言葉かけ等、対応が上手な職員を見習い、支援に繋げている。更に、書類等も守秘義務を意識し、安全な場所に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が選択するのではなく、利用者を選択して頂く場面を作ったり、「〇〇して下さいませんか？」と依頼する言葉掛けなど、自分で決めて暮らせる様、支援している。例えば、急に立ち上がられた場合「何処に行かれますか？」等、常に自己選択して頂けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースで生活出来るように、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望を聞きながら、馴染みの理美容院へ出かけられたりしている。外出が難しい方には、出張理美容にも来て貰っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の下ごしらえ等を一緒にして貰ったり、職員も一緒にテーブルに着き、食事を楽しんでいる。また、ツクシを取ったり、手巻き寿司を巻く等、季節を感じて貰えるよう心掛けている。嗜好調査をし、利用者の希望を取り入れている。	食事前に、踊りや歌ったり、早口言葉を言って、少し楽しんでから食事している。テーブルやイスの高さも、利用者一人ひとりに合うよう工夫され、食事環境にも配慮がされている。春と秋には、法人が経営するレストランに行き、ショップ内でパンを買って帰る等、外食も楽しむ事がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事はグループホームで手作りしており、一人ひとりの状態に応じた食事形態（ミキサー食やきざみ食等）で提供している。水分補給も、三度の食事以外にも摂取して頂ける様、声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の歯磨きの声掛けや、介助を行っている。毎日、義歯をポリドント洗浄したり、舌ブラシを使用して、口腔ケアも行っている。必要に応じて、歯科受診や協力医院の往診を受けたりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄確認表を作成し、排泄の声掛けや介助、失禁等の対応では、本人が不安を感じないように、また他の利用者の配慮しながら行っている。	トイレは主に2か所を使用しており、どちらも広々とした造りになっている。日頃はベットで横になる事が多い利用者も、出来るだけ立位で排泄をしてもらい、夜間も出来るだけ車イスでトイレに行く等して、オムツの使用を減らす支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	献立や水分摂取にも気を配っている。嚥下状態・疾病・運動量を加味し、個別対応を行っている。排泄確認表により、個々の排便の間隔や時間帯を把握し、その時間帯に排泄介助を行うなどの個別対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	介助は衣類着脱から洗身まで、一人のスタッフで行うことで、機械的な流れにならない様になっている。必要時にはスタッフが二人介助に入り、安全に努めている。現在は、基本的には午後入浴時間を設けており、一人ひとりの希望が十分取り入れられていない面もある。	入浴タイムは、基本的には3日に1度のパターンで、午後から行われている。殆どの利用者は楽しく入浴しているが、入浴拒否等の入浴困難な利用者には、家族から以前の入浴法を教えてもらい、職員は更に創意工夫しながら、チームで支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	それぞれの居室でゆっくり休んで頂いたり、縁側や和室・食堂にソファを置き、ゆったり座れる空間作りに取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの服薬に関して、用法・用量・目的・副作用が分かる表を作成し、周知を図り、確実に服用出来るよう支援している。誤薬を防ぐ為にも、服薬マニュアルに沿って支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事や庭の草取り等手伝って貰っている。季節感のあるお手伝い（栗の皮むきや柏餅作り・ふきの皮むき・ヨモギ採り等）も楽しんで貰っているが、身体状況の低下等により、十分に出来ていない。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	身体機能の低下、状態が悪化された方も多くなり、散歩が難しくなりつつある。天気の良い日には、庭で日光浴する等、戸外へ出ることが出来る様努めている。	散歩が困難な利用者は、庭に出る等して外出の気分を味わえるよう、細かい支援が感じられる。又、車で美術館やコンサートに出掛け、花見のドライブ等も楽しんでいる。更には、家族と共に、2か月に1度、定期的に自宅に外泊し、家族や地域と協力しながら、外出や外泊支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の希望に応じて金銭を所持して頂いており、外出時等お金が使えるように支援しているが、実際にはその機会は少なく、取り組みとしては不十分である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話を掛けたいという希望があれば掛けて貰ったり、携帯電話を所持されているご利用者もおられる。可能な利用者には、年賀状を書いて貰ったりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関周りの建物が民家を移築した物となっており、鉢植えを並べたり、木の温もりのある表札を掛けたりしている。玄関や共用の和室が昔ながらの民家を移築した物となっており、懐かしい雰囲気がある。</p>	<p>建物内は、昔ながらの趣のある雰囲気です。その為、室内の照度を補うため、天窗を設け、上から日差しを取り入れている。利用者が集う居間は、広く人の温もりが感じられる。玄関前に畑は有るが、外で作業する事は困難だが、桜の咲く時期は、庭でお弁当を皆で楽しむ事がある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファやベンチ・椅子等を共用空間や廊下等に置き、自分の好きな場所で過ごせるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時、家族に働き掛け、使い慣れた家具や生活用品を持ち込んで頂き、その人らしい部屋作りに取り組んでいる。</p>	<p>居室は畳の部屋が多く、どこかホッとした居心地の良さを感じる。利用者のほとんどはベットを利用しており、寝起きが困難な利用者は布団を敷いて生活している。部屋のカギを掛ける事を望む利用者には、施錠出来るよう取り付け、一人ひとりの利用者が、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>各要所へ手すりを設置し、玄関には椅子を置いて、靴を安全に履いたり出来る様工夫している。手作りの日替わりカレンダーを食堂に貼ったり、居室入口にはそれぞれの花を飾ったりしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名	グループホームみら屋
作成日	平成 29年4月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所の理念をつくり掲げて、管理者、職員がその理念を共有し、実践しているところがあるが十分でない。	法人としての理念の共有と事業所としての理念を再構築し、職員全員で共有する。	①事業所会議等を通じて、理念について職員が意見交換できる機会を持つ。	1年
2	2	地域との交流に努めているが、まだまだ不十分で日常的な交流には至っていない。	利用者と共に、地域と交流できる機会を、積極的につくる。	①地域の住民にも声をかけて、運営推進会議や消防訓練などの行事に参加していただき、定期的な交流のきっかけ作りを行う。 ②事業所の様子を知って頂けるように、広報誌を発行する。 ③地域の住民に参加（事業所に来てもらう）してもらう行事を企画する。	1年
1	18	〈チームで作る介護計画とモニタリング〉本人がより良く暮らすためのケアの在り方について、本人・家族・必要な関係者と話し合い、介護計画を作成しているが、チームとして具体的なケア計画の部分が不十分である。	チームとして、本人がより良い暮らしが継続できますよう支援していく体制づくりを行う。	①具体的なケア計画に本人の希望や支援の在り方を明文化する。 ②モニタリングの方法について再検討し、定期的にケア会議を行い、チームとして共有できる体制を作る。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。